

健診検査センターニュース

No.564 号

運営委員会より

12月15日（木）平成28年度第9回の運営委員会を開催いたしました。

1. 特定健診 11 月の受診者数は、下記のとおりでした。

	11 月受診数 (前年比)	累 計 (前年比)	函館市国保受診率 11 月現在 / 目 標 15.2% / 30.0%
函館市国保	1,353 人 (+63)	7,982 人 (Δ 511)	
後期高齢者	649 人 (+82)	4,371 人 (+ 160)	
その他	326 人 (Δ 45)	1,565 人 (Δ 116)	
合 計	2,328 人 (+100)	13,918 人 (Δ 467)	

実施機関：100 施設 / 登録機関 101

2. 28 年 11 月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	11 月 (前年同月比)	28 年度累計 (前年比)
一般検査収入	88.7 %	90.0 %
健診収入	122.3 %	103.8 %
合 計	104.0 %	96.3 %

《 ちょっと一言 》

師走の何かと気ぜわしい時期、宴会続きで体調を崩さぬよう皆様どうぞご自愛下さい。

先月の続きです。「社会保障費が増えると日本は破綻するのか？」を考えます。政府の財政を考える時、会社の経営と同じに考えてはいけません。会社は収入から経費を引いたものが利益ですが、政府の支出はその一部が、支払われた会社や人からの税収としてまた政府に戻ってきます。経済活動というのは、誰かの使ったお金が誰かの収入になり、その人がまたお金を使うことでお金がぐるぐる回ることなのです。現在の日本はこのぐるぐる回るお金が少ないデフレです。いくら政府が金融緩和をしても、ぐるぐる回るお金が増えませんでした。不動産や株式投資にばかりお金が回り、市井の人々には回って来なかったアベノミクス。実は日本人の実質賃金は1997年をピークにずっと低下し続けています。人件費がコストとして切り詰められるようになったことが諸悪の根源なのですが、人件費を切り詰めざるを得ない理由が「グローバル化」です。国の人口構成が変わったのにもかかわらず、内需が最も増加している医療介護分野への支出は切り詰められ、たくさんの人々がきつい介護を薄給で担っています。世界では「グローバル疲れ」が明確になった2016年に、周回遅れでグローバル化しようと「TPP 法案」を無理やり可決して今更どうすんの？です。人々が薄給で働く分野の給料が上がれば、世の中をぐるぐる回るお金が増え、それが本当の実態経済の活性化でありデフレからの脱却です。ただし今の日本では、子供の教育費と将来の医療介護への不安から、多少給料が増えても貯金しないと安心して暮らせません。このまま教育医療介護への国庫からの支出が減少し続けると、ますます世の中ぐるぐるのお金が増えません。でも支出を増やしたらやっぱり破綻が心配？大丈夫、この数年の金融緩和で日銀が大量の国債を買い取りました。結果、政府の実質的な負債は減少です。国債が日銀に買い取られると政府は実質的に「借金棒引き」です。だって日銀は日本政府の子会社ですもん。これが自国通貨建ての国債で破綻することはない理由です。

(文責 小葉松洋子)

採血管容器変更のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

この度、末梢血液一般検査で使用している紫栓真空採血管（EDTA-2K）におきまして製造元より急遽、製造を中止すると連絡がございました。

当センターとしましては変更をせざるを得ず、お詫びとともにご案内申し上げます。

先生方には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

開始日：平成29年1月より随時変更

変更容器：

容器番号	05	紫栓真空採血管 (EDTA-2K)
新		旧
		
採取量	2.0ml	

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail : info@hma-labo.jp
E-mail : info@hma-labo.jp